

情報共有

非管理会

(4枚)

NISA班←プラス対応T

11/16 手許資料
取扱注意 公開不可

暫定版

プラント状況（本店会見）議事メモ

日時：平成 23 年 11 月 16 日（火）18:00～19:00

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 20 名（カメラ 3 台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所の状況
- 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第二百三十六報）
- 福島第一原子力発電所付近における海水中の放射性物質の核種分析の結果について（第二百二十九報）
- 福島第一原子力発電所沖合における海底土の放射性物質の各種分析の結果について（続報 41）
- 福島第一原子力発電所取水口で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について（11月 15 日採取分）
- 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果
- 福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の貯蔵及び処理の状況について（第 21 報）
- 【動画・参考資料】福島第一原子力発電所 3 号機原子炉建屋 1 階ロボットによる雰囲気線量の測定結果

よりプラント状況に関して説明。

質疑：

Q. 3 号機原子炉建屋での Pack bot による測定点の高さとはどこからの高さのことか。また、1300mSv を測定した時の高さはどのくらいか。また、今回の測定点以外でも高い線量の箇所があるのではないか。

A. それぞれ床面からのおよその高さで 40 cm、120 cm、170 cm で Pack bot のアーム部分に測定器をつけている。1300mSv を計測した箇所はウエスを拭き取った場所なので、床面から約 10～20 cm 程度の高さ。現状ではガス管理システムを設置する予定の箇所でしか測定していないので、他の箇所についても高いところは出てくる可能性はある。

Q. 3 号機のガス管理システムはいつ設置するのか。

A. 当該現場の機器ハッチ上部の配管に近づけないと作業できないため、線量を低減する必要がある。今のところ設置時期は未定。

Q. 3 号機の水が溜まっていたレールは何のためのレールか。また、線量が高い理由と、スラッジは何に由来するものか教えてほしい。

A. 機器ハッチ遮蔽のためのコンクリート製の扉を移動させるためのレール。高線量で

あるのはそこに溜まっていた水が原因と考えられ、機器ハッチのシール部から放射性物質が漏えいした可能性がある。

Q. 今後ガス管理システムの配管をつなぐために作業員が入るが、どのように除染していくのか。

A. 明日、明後日でもう一度 Pack bot で水の拭き取り作業を実施し、その結果、線量がどの程度低減されるかがポイントになる。また、以前実施したように床面へ鉄板を設置することで線量を低減したり、図面の⑨のように比較的線量の低い箇所からのアクセスルートなども検討したい。

Q. 水だけ拭き取れば線量が下がるということか。

A. 図面の①～④の北側レール沿いが比較的線量が高いということと、高さに応じて線量が減っているので、レールに溜まった水の下のステッジが線原であると考えられる。それ以外は高さによる線量差がないので、床面からの影響ではないと思われる。従つて、床面以外を含めた遮蔽の必要性があると考えている。

Q. 格納容器ガス管理システムの設置はステップ2の終了までに間に合うのか。

A. 格納容器ガス管理システムの完成はステップ2の終了条件ではない。現時点では原子炉建屋からの放射性物質は抑制できていると考えている。

Q. 格納容器ガス管理システムの設置予定のために、どのくらいまで線量を低減できれば、作業が出来ると考えているか。

A. これまでの作業実績を考えると 100mSv を超える状況下では厳しいと考えている。少なくとも十数%に低減し、作業時間の縮小や交代作業などで被ばくを低減したいと考えている。

Q. 1回の作業における被ばく線量はどのくらいか。

A. 最大で $12\sim14\text{mSv}$ 程度と思われる。それでも線量は高いので、可能な限り低減したいと思う。

Q. ステップ2以降は、作業員が通常の被ばく線量の管理に戻ると思うが、1作業あたりの被ばく限度はどのように考えているのか。

A. 通常の被ばく線量管理は、年間 50mSv 、5年間 100mSv 。1回あたりの線量が高くなつた場合、それ以外の作業をさせないとやり方も必要だと考えている。

Q. 先ほど原子力安全・保安院から手順書が公開されたが、1号機と比較して、2、3号機で特徴的な点はあるのか。

A. 基本的な考え方は1号機と同じで、○、△、□、ーの評価があり、△や□について津波の影響などによって対応が困難だったものを示している。

Q. 2、3号機で特徴的にできなかった作業は何か。

A. 2号機の格納容器ベントの正否の確認や、1号機ではRCICが無い点など細かい箇所はあるが、大きく1号機と違うということはない。

Q. 3号機の線量はいつ計測したのか。また、当該数値は過去最高なのか。

A. 14日に測定している。1300mSvは3号機では過去最大値である。

Q. 現在、毎時1億ベクレルの放射性物質が放出されているが、格納容器と使用済燃料プールから放出されている割合を教えて欲しい。

A. 放射性物質の放出経路については、圧力容器から格納容器外シール部から漏れて放出されるルートと、爆発時に建屋内に留まっていた放射性物質が空気の流れで飛散した2つのルートが考えられる。1～3号機で1億Bq/hと算定している。使用済み燃料プールの2、3号機から10の-4～5乗オーダーのセシウムが検出されているが、桁違いに小さいので、建屋から放出されているのがほとんどだと考えている。

Q. 現在、福島県などで除染作業が行われているが、放射性物質の放出が収まらない限り、無駄な除染作業になると思われる。東京電力はどう考えているか。また、放射性物質を外に放出させない手段など検討しているのか。

A. 1億Bq/hを放出しているのは事実。ただし、事故発生当初から比べると極めて小さくなっている。除染活動で問題になっているのは、事故発生時に放出された放射性物質。現在では、敷地境界でも0.2mSv/年なので、一般公衆の被ばく線量からみると小さい値である。よって、現在降り積もっている放射性物質を除染することが重要だと考えている。また、原子炉をさらに冷却すればセシウムの蒸発が減るため、原子炉の冷温停止が重要である。

Q. 1号機の建屋カバーは機密性がないのではないか。建屋カバーはどのような目的で設置し、費用対コストとしては妥当なものだったのか。

A. 設置費用は契約上の問題もあるので申し上げられない。廃棄システムの入り口と出口での数値がNDなので、十分効果はあると考えている。機密性がないというのは、通常の原子炉建屋と比較した時のもの。1時間あたり約4万m³程度の空気を吸い込んでいるので、効果はある。

Q. 格納容器ガス管理システムの水素濃度で、水素濃度4%、酸素濃度5%になると着火源がなくても爆発するとのことだが、現時点の格納容器内の水素と酸素の比率はどうか。

A. 本日17時の2号機格納容器の水素濃度は1.1%。仮に水素濃度が可燃限界になっても、着火源がないと爆発しないため、極めて爆発の可能性は低いと思う。水素の発生源は損傷燃料の放射線が注水している水を分解して、水素と酸素を2:1の割合で発生しているものと考えている。また、事故発生当時に大量に発生した水素もあり、約1%程度は格納容器内に残っているものと評価している。

Q. 以前、配管での水素濃度が高かったのはなぜか。

A. 格納容器の行き止まり箇所やふた部分などにたまっていた水素が1号機の配管切断の際に高濃度で検知されたと考えている。

Q. 福島県いわき市の折り込み広告で、Jヴィレッジのウェイトレスを募集していた。零

囲気線量の高いJヴィレッジにて、一般の女性を勤務させることに問題はないのか。

A. Jヴィレッジは計画区域との境目であり、管理区域の空間線量には至っていないと判断している。詳細な値については確認する。また、Jヴィレッジのレストランは当社で運営していないので、それらを運用している会社が採用活動をしていると思われる。

Q. 本日原子力安全・保安院から公表された「3号機事故時運転操作手順書の適用状況」の11ページについて、負荷を次々に切っているのはバッテリーの負荷を長持ちさせるためなのか。またそれぞれの電源の説明をしてほしい。

A. その通り。プロコン室非常照明は直流照明。プロコンとプラディス電源は集中監視系計器の電源。EHCはタービン制御用、タービン駆動用の電源。CRD 9-27、28電源は制御棒操作用の電源であり、制御棒挿入の操作終了後に電源を切っている。中操仮設照明、DC照明は照明電源。バイタル電源、中操通信用はバックアップであり、不要なので切っている。

Q. これらの電源は復旧作業で必要な電源でないということか。

A. その通り。

Q. 中央操作室の通信用電源OFFはあるが、何に使う通信設備か。

A. おそらくパネルにジャックをつなぎ、電話をするための電源だと思うが、確認する。

Q. 2号機ではこれらの電源を切っていないのはなぜか。

A. バッテリーの操作や順番は当直長が優先度を判断して行っている。おそらく3号機では事故後にRICでの冷却ができていたことから、順次直流負荷の切り離しを行ったものと思われる。2号機に関してはその間、別の作業をしていたため、操作できなかったと思われる。

Q. 11ページの下に、DG駆動消火ポンプによる炉注水を試しているが、2号機ではその記述がないのはなぜか。

A. 2号機では当初RICで原子炉への給水できていため。

Q. 先日、Jヴィレッジでマスコミ公開があったが、フリーランスも雰囲気線量が低いJヴィレッジならば取材に入れないのでないか。

A. フリーランスに限らず、Jヴィレッジは警戒区域の中なので、取材はご遠慮いただいている。

Q. 警戒区域内の取材が無理なのに、なぜ一般人は警戒区域内で労働できるのか。

A. 仕事として業務はあるので、そういった仕事に就く方は仕事をされると思う。マスコミ取材については政府とも相談しているが、現在、警戒区域内への取材はお断りしている。

以上